

# ゆほびか通信

## 平成29年 2月号

発行者 エコウイングあかし事務局

(明石市環境部環境総務課計画係)

〒674-0053 明石市大久保町松陰 1131

Tel: 078-918-5029 Fax :078-918-5586

編集:エネルギーグループ(年4回)

### 1.ゆほびか活動

環境家計簿の平成28年度10月から12月分の集計ができましたので、発表します。

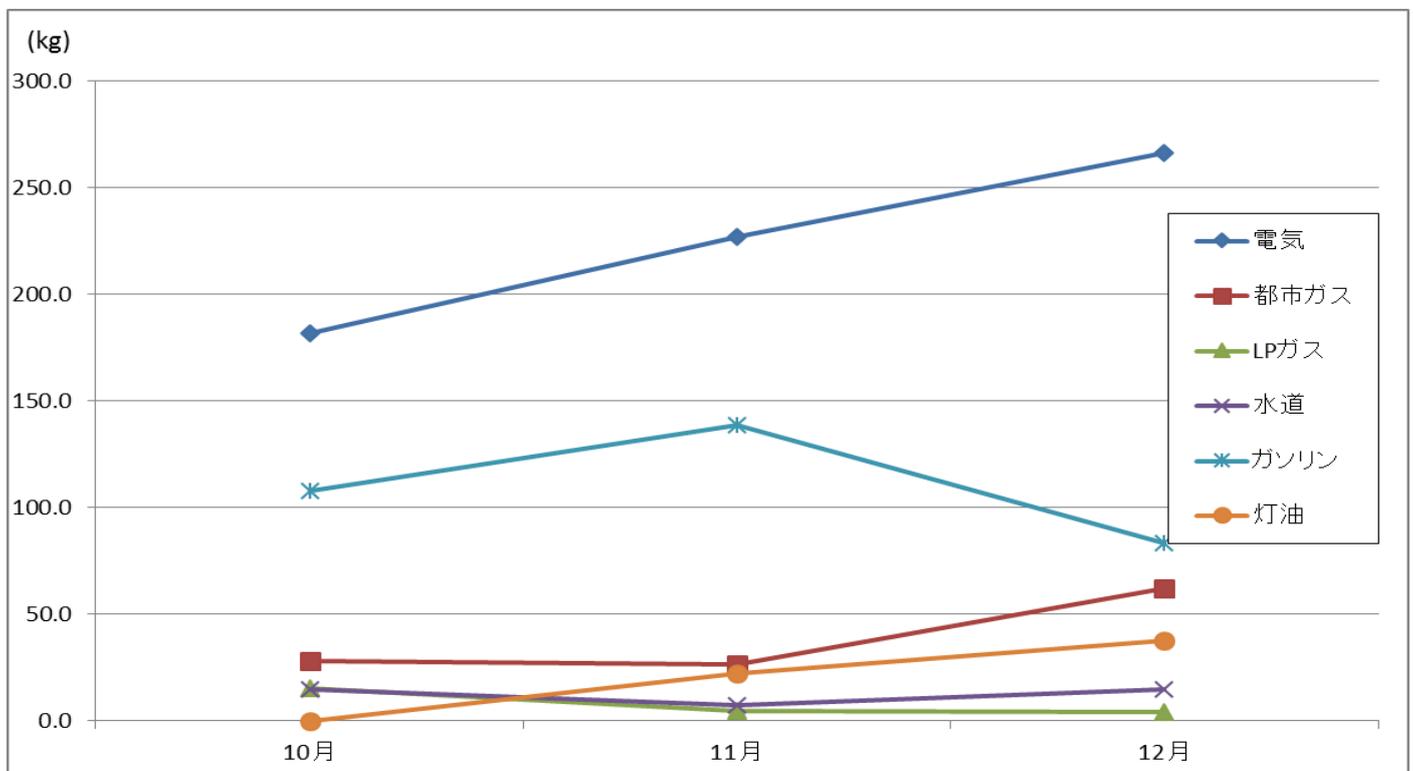
【平成28年10月～12月環境家計簿CO2排出量(会員平均)】

	10月	11月	12月
電気	181.7	226.9	266.5
都市ガス	27.9	26.3	62.0
LPガス	15.2	4.5	4.0
水道	14.6	7.2	14.6
ガソリン	107.8	138.6	83.5
灯油	0.0	22.5	37.5

#### 【表の評価】

平成28年10月～12月のエネルギー消費に基づくCO2排出量の変化を取ったものですが明らかに10月から12月に向けて増加しており電気、都市ガスに顕著に表れています。外気温の低下が影響したものです。東京の平均気温を見てみると10月は18.4℃、11月は11.4℃、12月は8.9℃でした。

この調査に参加している人は、6名で少ないですが、家族構成に変化があるにもかかわらず同じ傾向を示しています。



上記の数値をグラフにしたもの

## 2. 北極と南極の氷の面積が過去最少に

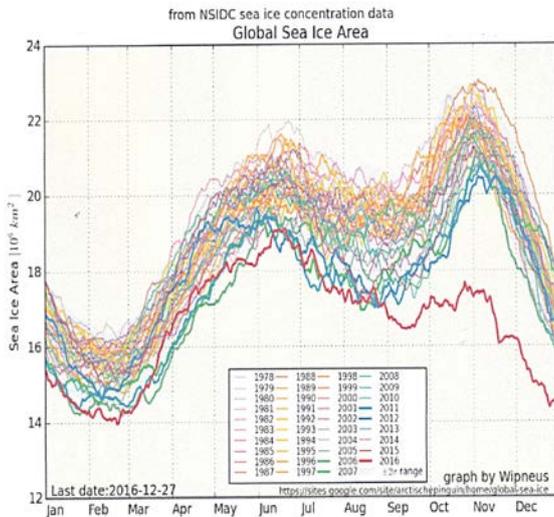
米国立雪氷データセンターは、2016年11月の北極と南極の氷の面積が史上最少を記録したと発表しました。

南極は過去の最少記録より100万km<sup>2</sup>、北極は80万km<sup>2</sup>減少しているということで、これは氷の全体面積の1割弱で、日本の面積(37万km<sup>2</sup>)の約5倍に匹敵するといわれています。原因は、温暖化とエルニーニョ現象の影響が考えられます。

図は過去39年の氷の面積を示していますが、昨年(一番下の曲線)は急速に減少しています。

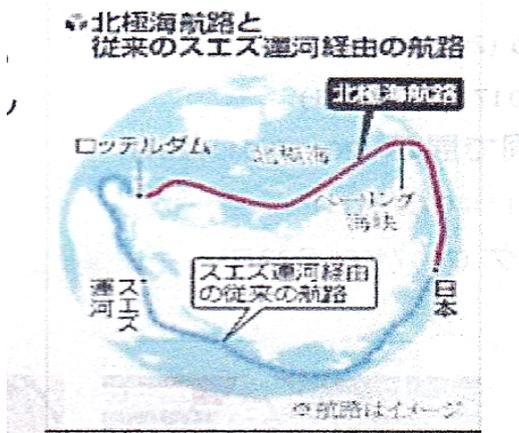
人口大国の中国、インドや途上国の経済拡大は続き、温暖化は防止どころか加速していきます。コスタリカ、ドイツなどは、はっきり自然エネルギーに転換しています。日本はまだ石炭火力を増やしていますが、早く自然エネルギーに転換しなければなりません。

その反面、北極の氷の面積が少なくなることが、エネルギー消費面で有利になることがあります。



↑南北両極の海氷面積の年次変化 <http://nev0.com/topi201701>より

GLOBAL SEA ICE AREA の図



### 北極海に熱い視線が注がれている

北極海の海氷は例年3月に最も大きくなり北極海のほぼ全域を埋め尽くします。その後、春から夏にかけて北極海の中央部に向けて縮小して、9月には最も小さくなります。季節変動に加えて長期的視点から見ても温暖化の影響で海氷は減少していく傾向が見られます。特に最近10年間ではその傾向が強くなり、夏にはロシアやカナダの沿岸部で氷がほとんどなくなって、大西洋と太平洋を結ぶ海上航路が出来ています。航路にはロシア沿岸を通る北東航路とカナダ沿岸を通る北西航路の2つがありますが、特に前者は一般に北極海航路と呼ばれています。この北極海航路は欧州と東アジアを結ぶ最短の海上航路となることから、近年急速に注目され始めています。

横浜からスエズ運河を経由してオランダのロッテルダムに向かう場合、航路距離は約2万700キロメートルが北極海航路を利用すると約1万3100キロメートルとなって航海距離が約3分の2に短縮されることとなります。このルートに欧州や東アジアを起点とする船舶関係業者が注目するのも当然でしょう。

## 3. イオン環境フェアの開催

3月5日(日)に例年通りイオン(明石)海の広場で、環境フェアを開催します。

エネルギーグループでは、自然エネルギーで動く玩具類や、鉄道ジオラマ、自動車運転シミュレータと景品が当たる環境クイズを出展しますので、皆様のご来場をお待ちしています。